

遠藤 守 レポート

E-mail: v1@endomamoru.com ホームページ: <http://endomamoru.com>

「調査なくして発言なし」と 精力的に視察

6月の定例議会を前に、遠藤守は「調査なくして発言なし」とのモットー通り、各地へ視察に出かけました。

以下、その一部を時系列で紹介します。

○放射線治療は手術と同じ効果○

【5月11日 東大病院（東京・文京区）】

がんの放射線治療の現状と課題を探るため、北側幹事長らとともに、東大病院を訪問。中川恵一・放射線科准教授の案内で、最新の放射線施設を視察し、意見交換しました。

中川先生の話の要点は、①治療効果は放射線も手術も概ね同じ（胃がんなど一部は手術の方が有効）②にもかかわらず、米国と日本の放射線治療の割合は66%対25%③放射線治療の利点は、手術に比べて患者の体への負担が圧倒的に少なく、医療費も安い④放射線治療の普及には、国民自身が、手術以外にも、放射線治療という別の有効な選択肢があることを認識することが肝要——とのことでした。

○国・都・区の骨太議論が肝要○

【5月17日 羽田空港（東京・大田区）】

山口なつお参院議員らと、羽田空港を訪問、4本目となる新滑走路の建設現場(海上)をはじめ、空港の心臓部とも言うべき管制施設などを視察しました。

都は、現在建設が進む新滑走路に財政負担をしています。また、空港の沖合移転によって生じた「跡地」利用についても、国・都・

大田区の三者協議会があり、話し合いが続いています。しかし、今回の視察を通じて感じたことは、こうした個別の事業はともかく、そもそも、「(国益、国際戦略の上から)羽田空港をどう活用するのか。そのため都、区との連携はどうあるべきか」といった、骨太な議論がないがしろにされてきたのではないか、という点です。

○話題の循環型住宅を見学○

【5月22、23日（名古屋市&三重県）】

都議会公明党の東村議員と22日、名古屋市守山区にある「循環型モデル住宅」を訪問。同住宅は、「愛・地球博」（平成17年3月～）開催に合わせて、名古屋市と民間企業などが共同で建設したもので、各戸に省エネや自然エネルギーを活用した最新技術を導入。また、各住戸の中央には、なだらかな起伏をつけた共同スペースが配置され、園芸や家庭菜園などを通じ、住民同士のコミュニケーションが自然とつくられるように工夫されています。

翌23日には、三重県議会を訪ね、同県会が先進的に取り組んでいる議会改革について担当者から説明を聴取しました。

○三多摩地域150キロを走破○

【5月24日（都内）】

都議会の経済・港湾委員会の一員として、調布飛行場（調布市）、地方卸売市場（国立市）、花粉症対策のための伐採現場（青梅市）などを訪問。一日で約150キロを走破する“駆け足視察”でしたが、大変有意義でした。